

めざす学校像・子ども像・教員像		課 題	今後の改善方策
○地域に開かれ、安全・安心で、家庭や地域から信頼される学校 ○思いやりの心を持ち、自ら意欲的に学び、自己を高めようとする子ども ○常に自己研鑽と工夫改善に努め、子どものよさを伸ばす教師		学力向上推進プランに基づいた基礎学力の定着	・3つの授業改善のポイントを押さえた授業づくりと実践を全職員で行う。 ・放課後のふれあい学び舎事業の計画的な実施と拡充を図る。 ・指導方法工夫改善担当との連携強化による補充的・発展的な学習のさらなる実施を通して基礎・基本を定着させる。
		道徳科の充実と道徳教育の充実	・道徳科の指導と評価を意識した授業の積み重ねを行う。 ・学校教育全体で行う道徳教育のカリキュラムを見直し、実施する。 ・全教職員による校内授業研修を行う。
		事件・事故・いじめ等の未然防止及び初期対応の徹底	・学校独自の危機管理マニュアルおよびいじめ基本方針の確認と見直しのための全職員による研修会を年2回以上実施する。 ・公務員の服務規律や倫理意識向上について、月1回確認することに加え、機会に応じて研修を実施する。
重点目標	指標(取組指標・成果指標)	達成状況についての説明	
確かな学力の定着	学期末テスト(漢字・計算)において全学年85%以上の定着率を達成する。 学力向上研修会を毎月1回実施し、成果と課題の共通理解、授業改善項目における職員自己評価90%以上とする。	・学期末テストで漢字・計算において全学年85%以上の定着率を達成することができた。日常の授業改善を加えながらさらなる定着をめざす。 ・学力向上研修を計画的に実施し、7月に提案授業、12月に全研を行い、振り返りと交流に重点を置いた学習過程について全職員で共通理解を図ることができた。	
	保護者との連携、ふれあい学び舎事業の活用により、家庭学習(宿題)提出100%を達成する。 丸つけ隊や学生ボランティアなど地域教育力GTを活用し、個別指導を充実させる。		
道徳性の育成	模擬授業や検証授業を基に成果と課題の共通理解・授業改善項目における職員自己評価で90%以上を達成する。 児童アンケートにおける思いやり・規範意識・自尊感情・挨拶の項目において85%以上を達成する。	・職員自己評価で、授業力向上、組織的研究、児童の学力向上すべての項目で肯定的評価が90%を達成することができた。2学期末の学校内評価でも、学力向上研修・テーマ研修のどちらも授業力向上の項目は、平均して95%を達成している。 ・2学期末の児童アンケートでの肯定的回答は、自尊感情77%、規範意識90%、挨拶93%となっている。 ・道徳科と関連させた道徳教育の活動(ふれあいの木、ハートタイム、一人一鉢等)の確実な実施とカリキュラムの見直しを行うことができた。	
	道徳科と関連させた道徳教育の活動(ふれあいの木、ハートタイム、一人一鉢等)の確実な実施とカリキュラムの見直しを行う。		
事件・事故・新規不登校児童・いじめを生まない取組推進の強化	Q-Uテスト年2回、学校生活アンケート毎月1回実施し、課題・改善点を共通理解すると共に、年2回の研修会を行う。 毎月1回生徒指導全体会実施を核に、日常的に取組や改善点を確認し、事件・事故・いじめ・新規不登校を0にする。	・Q-Uテスト年2回、学校生活アンケート毎月1回実施し、課題・改善点を共通理解すると共に、年2回の研修会を行うことができた。 ・毎月1回生徒指導全体会実施を核に、日常的に取組や改善点を確認した。しかし、交通事故1件、跳び箱での事故1件・いじめ1件発生した。新規不登校は0であった。 ・家庭やSSW・SC・関係機関と日常的な連携を図り、組織的・迅速に対応し、未然に防止することができた。 ・月1回の安全点検の確実な実施とヒアリハット事案についての情報交換を通して、事故の未然防止に努めることができた。	
	家庭やSSW・SC・関係機関と日常的な連携を図り、組織的・迅速に対応し、未然に防止する。 月1回の点検に基づく安全な環境整備と危機管理に関する研修会を適宜実施し、事件・事故を未然に防ぐ。		
学校関係者評価についての説明(評価委員からの意見・要望・改善に向けた提言等)			
○ 子どもの気持ちを聞くためにもアンケート形式の方が子どもたちも素直に書けると思います。 ○ 学力の定着ができてきているみたいですので今後とも漢字・計算などしっかり力をつけていって欲しい。 ○ 授業中の子どもたちの様子が落ち着いているので良いと思います。 ○ これからもいじめ等への素早い対応をお願いします。			